ユニバス

UCB-100

取扱説明書

入出浴作業 ･････････････････････････････ 2
座面で入浴 ･････････････････････････････ 2
座面を沈めて入浴 ･････････････････････････ 7
車椅子で入浴 ････････････････････････････ 10
操作方法 ･････････････････････････････ 15
シャワーの使い方（オプション） ･･････････････････ 16
日常のお手入れ ･･････････････････････････ 18
座面用マットの着脱 ････････････････････････ 18
清掃 ･･･････････････････････････････････ 18
薬液殺菌について ･････････････････････････ 19
このようなときは ･････････････････････････ 20
緊急時の脱出方法 ･････････････････････････ 29
機器について ････････････････････････････ 30
保守・点検について ････････････････････････ 30
保証とアフターサービス ･････････････････････ 31

●このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

●「取扱説明書」は

・1部を現場用として、常に参照できる状態を保ってください。
・1部を保存用として、大切に保管してください。

入浴・サポート編

基本 P.○○　という表記の場合は、
ユニバス（UCB-100）の取扱説明書基本操作編の
P.○○をご覧ください。

車椅子 P.○○　という表記の場合は、
入浴用車椅子（UCB-110C）の取扱説明書の
P.○○をご覧ください。

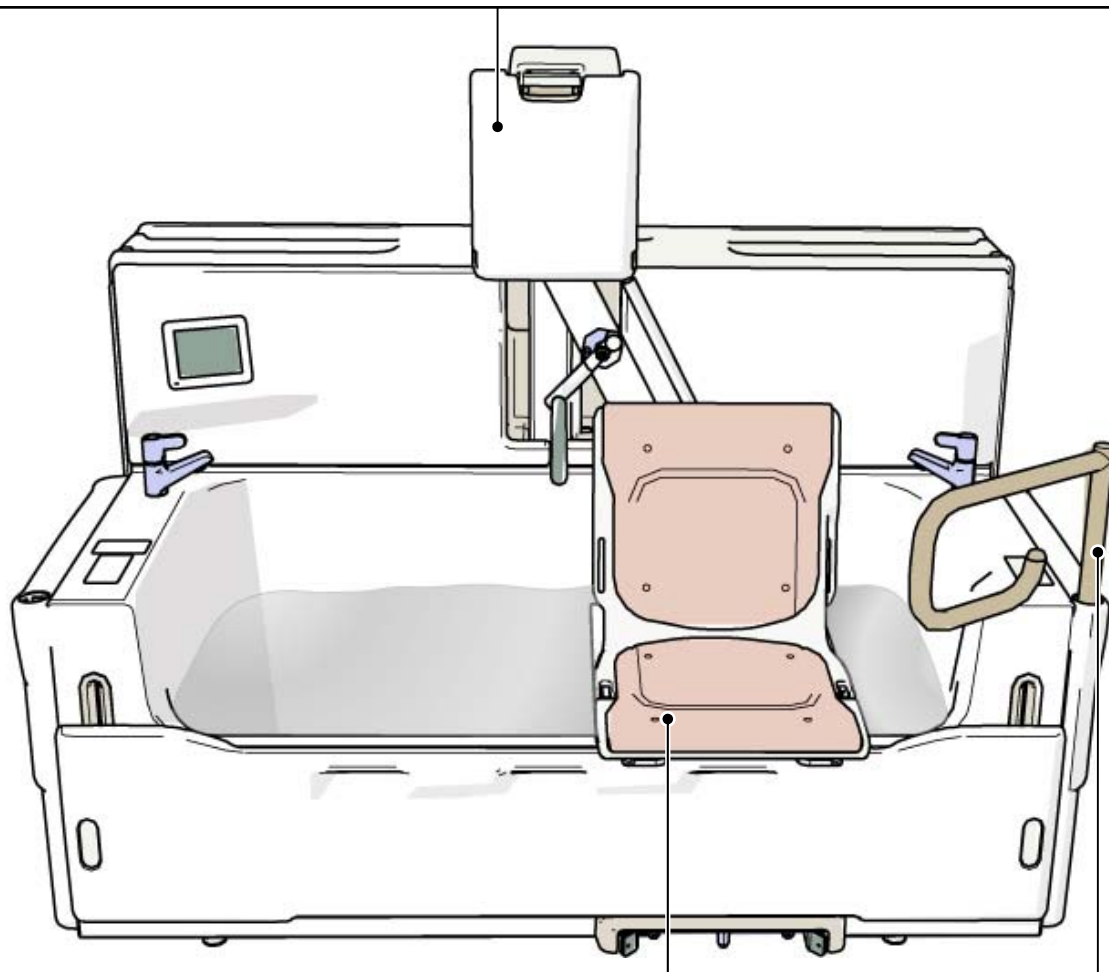
01-207④Q4

入出浴作業

座面で入浴

座面に座り、リフトを使って入浴する方法です。

浴槽の準備

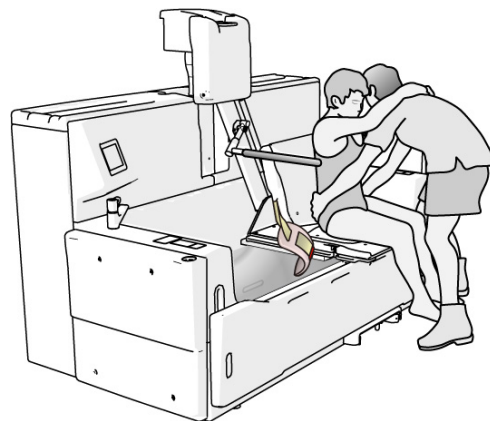
・リフトを上限まで上昇させてください。　→基本 P.30
・入浴者の容態に合わせてリフトの左右を設定してください。　→基本 P.37

・座面を取り付けてください。　→基本 P.34
・座面を固定してください。　→基本 P.35

リフトの設置側に縁手すりを移動してください。　→基本 P.31

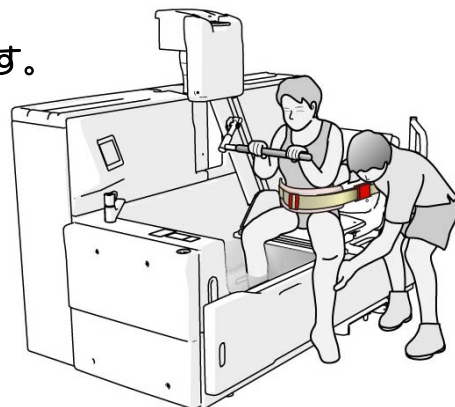
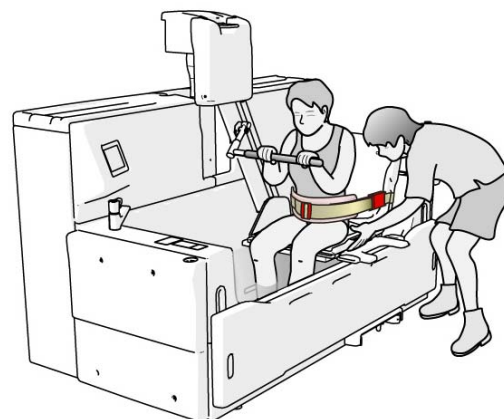
湯はりをしてください。　→基本 P.22

入出浴作業／座面で入浴

槽内へ移乗

1. 入浴者を座面に座らせます。

2. 安全ベルトを装着します。　→基本 P.36

3. 座面のロックピンを戻し、ロックを解除します。　→基本 P.35

4. 座面を槽内へ押し込み、足を抱えて浴槽に入れます。

5. 座面を浴槽奥までしっかり押し込みます。

入出浴作業／座面で入浴

入浴する

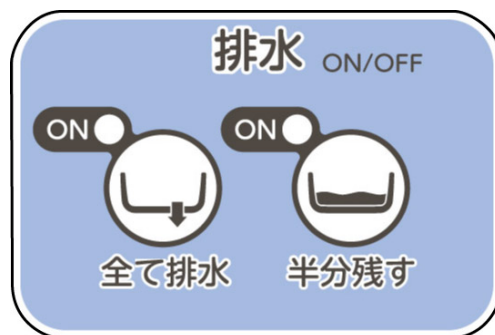
1. 扉を閉めます。　→基本 P.26

2. 自動でシールされたことを確認し、入浴者の状況を看視しながら、リフトを下げます。　→基本 P.28

3. 入浴者の体格や姿勢に合わせ、たし湯をします。　→基本 P.41

入出浴作業／座面で入浴

風呂から上がる

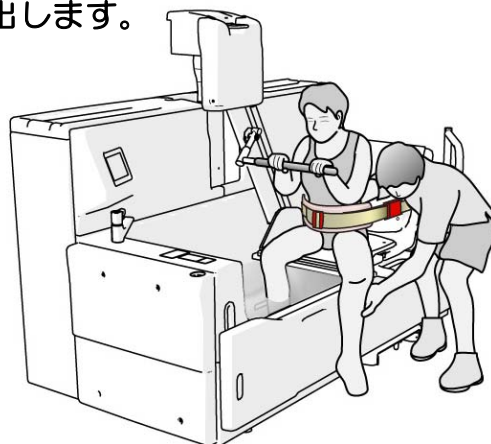
1. 排水スイッチを押します。　→基本 P.26

2. 排水されて湯量が減り、扉のシールが自動的に解除されたことを確認します。
→基本 P.26

3. リフトを上限まで上げます。　→基本 P.30

4. 扉を開けます。　→基本 P.26

入出浴作業／座面で入浴

槽外へ移乗

1. 座面を手前に少し引き、足を抱えて浴槽から出します。

2. 座面を回転させ正面に向け、ロックします。 →基本 P.35

3. 安全ベルトを外します。 →基本 P.36

4. 入浴者に立ち上がってもらいます。

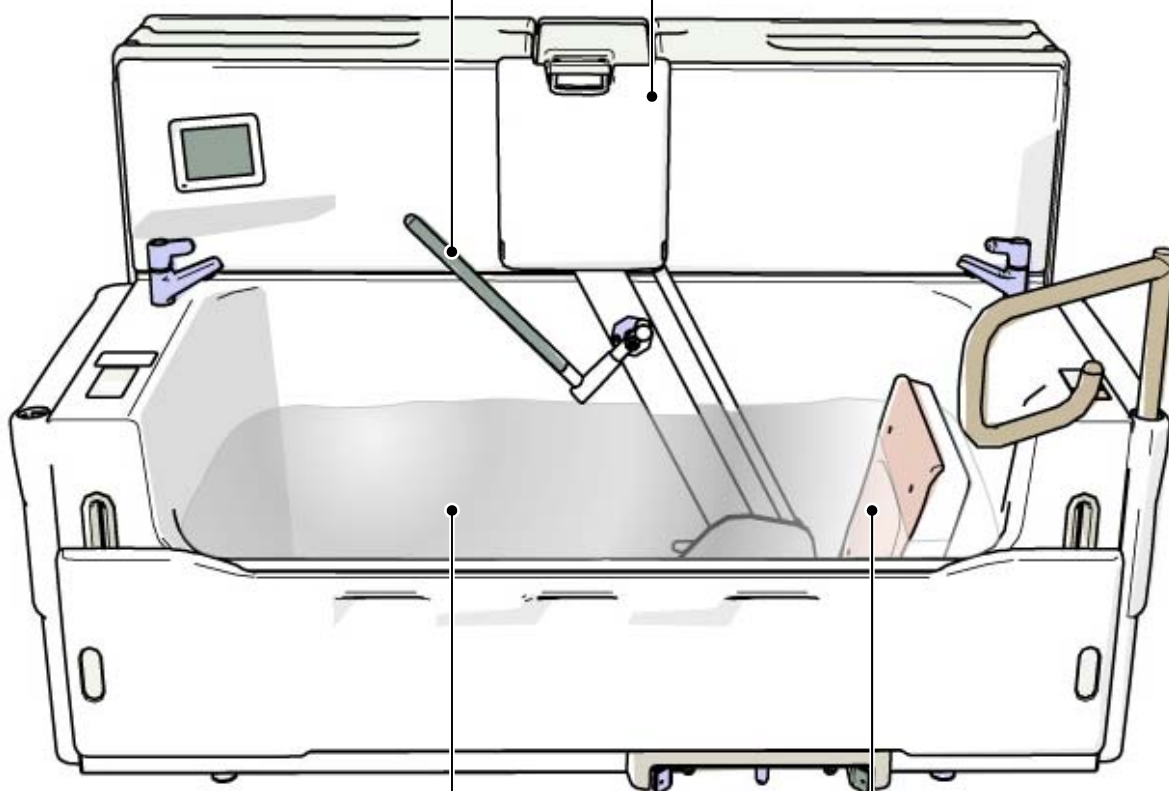
入出浴作業

座面を沈めて入浴

浴槽縁をまたいで直接入浴する方法です。

浴槽の準備

- 入浴者の容態に合わせてリフトの左右を設定してください。　→基本 P.37
- リフトを入浴者に合わせて、適切な高さまで下降させてください。　→基本 P.29

昇降手すりを折りたたんでください。
→基本 P.32,33

湯はりをしてください。　→基本 P.22

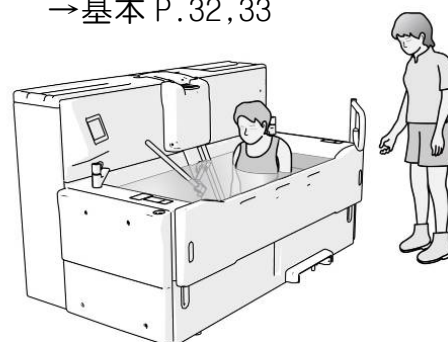
座面を取り付けてください。　→基本 P.34

入出浴作業／座面を沈めて入浴

槽内へ移動、入浴

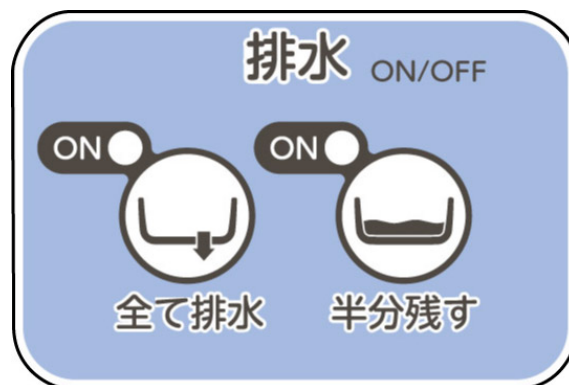
1. 入浴者に縁をまたいで槽内に入ってもらいます。

2. 扉を閉め、座面に座ってもらいます。　→基本 P.26

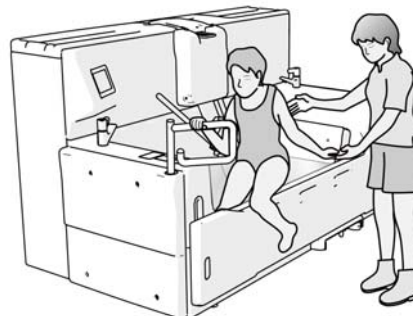
3. 必要なら昇降手すりを倒し、握ってもらいます。　→基本 P.32,33

4. 入浴者の体格や姿勢に合わせ、たし湯をします。　→基本 P.41

入出浴作業／座面を沈めて入浴

風呂から上がる

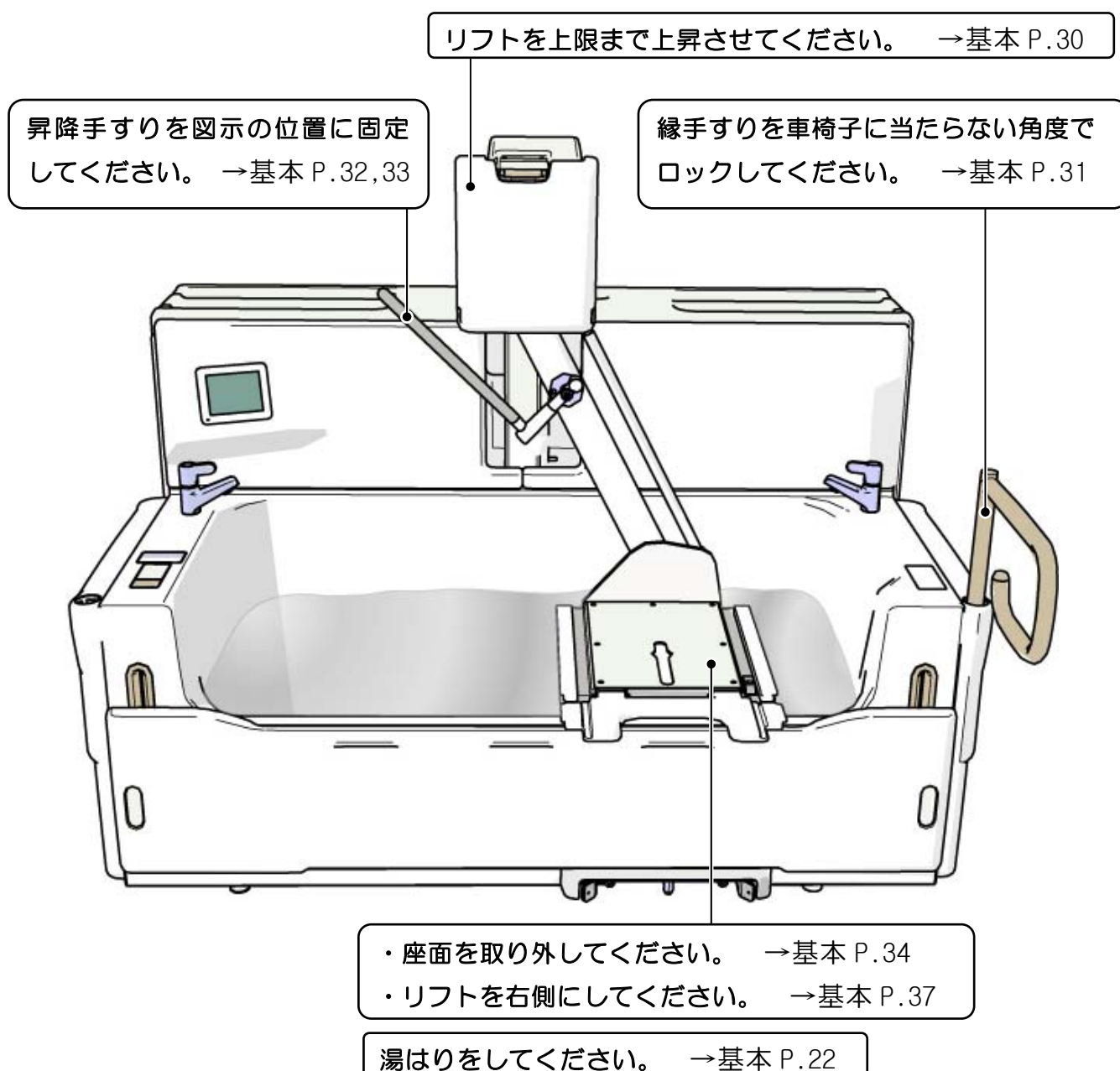
1. 排水スイッチを押します。　→基本 P.26

2. 排水されて湯量が減り、扉のシールが自動的に解除されたことを確認します。
→基本 P.26

3. 扉を開けます。　→基本 P.26

4. 入浴者に浴槽内から上がってもらいます。

入出浴作業

車椅子で入浴

専用の入浴用車椅子（UCB-110C）に座ったままで入浴する方法です。

浴槽の準備

入出浴作業／車椅子で入浴

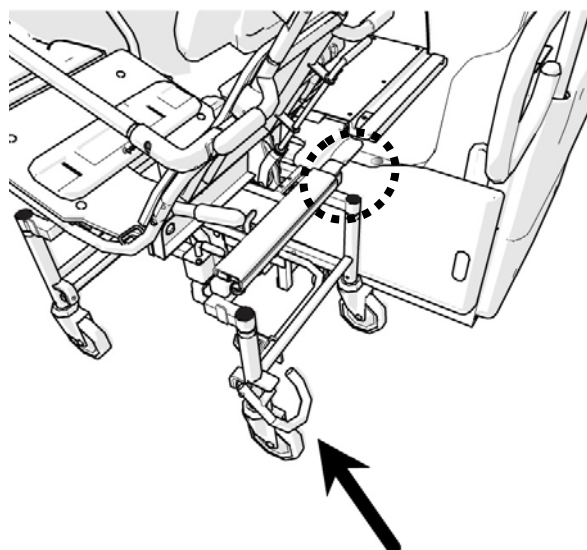
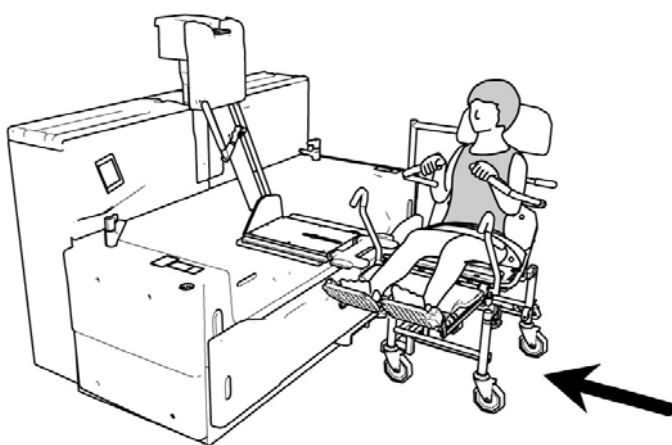
車椅子の準備

車椅子をチルトさせ、フットレストを上げます。
調節方法については下記のページでご確認ください。

・チルト　→車椅子 P.18
・フットレストを上げる　→車椅子 P.19

槽内へ送る

1. 車椅子を浴槽と連結させます。

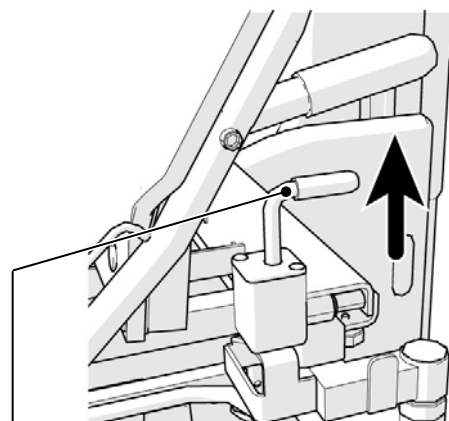
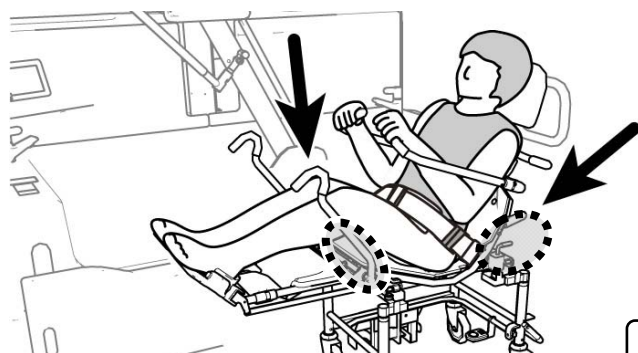
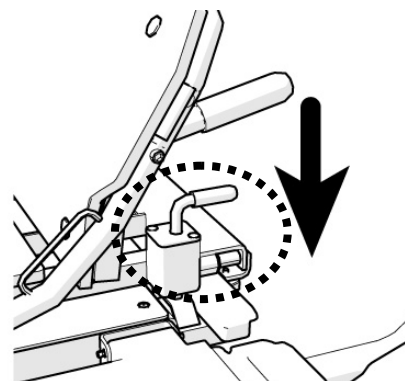
浴槽縁に付いている連結用の目印と、車椅子下部にある黒い部材が合う位置に車椅子を移動し、浴槽の方向に押し込んでください。

連結されると操作パネルに表示されます。

連結後、キャスターストッパーを踏んでキャスターをロックしてください。

> ⚠注意　**車椅子を連結したら操作パネルを確認する**
> 操作パネルに確認の表示がないときは、連結が不十分です。車椅子の連結をやりなおしてください。

入出浴作業／車椅子で入浴

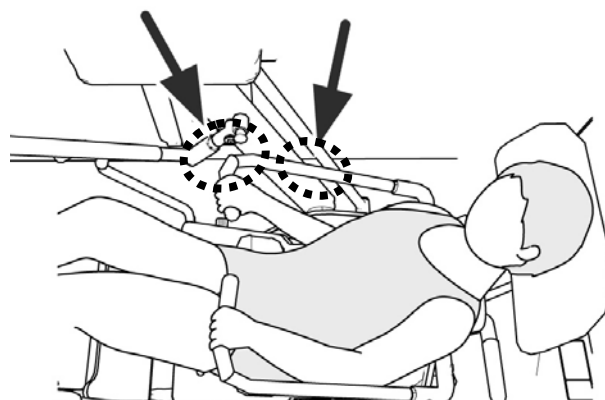
2. スライドレバーを引き上げ、車椅子上部を槽内へ送ります。

浴槽内に送り込むときは、スライドレバーのグリップと足上げハンドルを持って操作してください。

3. 槽内でスライドレバーがしっかり下がり、ロックされたことを確認します。

注意

- **槽内に送り込む際は、入浴者のひじをアームサポートの中に入れる**

入浴者のひじが車椅子の外に出ていると、リフトとアームサポートの間に挟み込んでけがをする恐れがあります。

- **入浴者の手の位置に注意する**

昇降手すりとアームサポートの隙間が狭くなっているため、指の挟み込みに注意してください。

入出浴作業／車椅子で入浴

入浴する

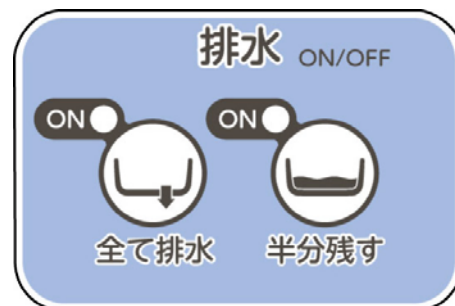
1. 扉を閉めます。　→基本 P.26

2. 自動でシールされたことを確認し、入浴者の状況を看視しながら
リフトを下げます。　→基本 P.28

3. 入浴者の体格や姿勢に合わせ、たし湯をします。　→基本 P.41

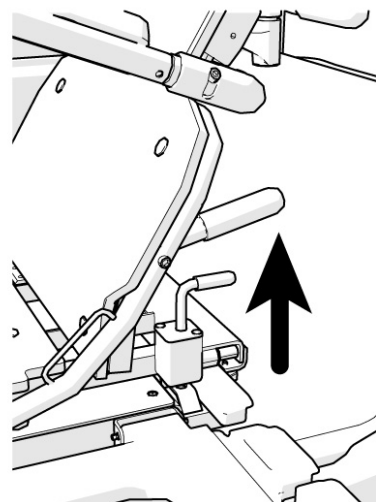
入出浴作業／車椅子で入浴

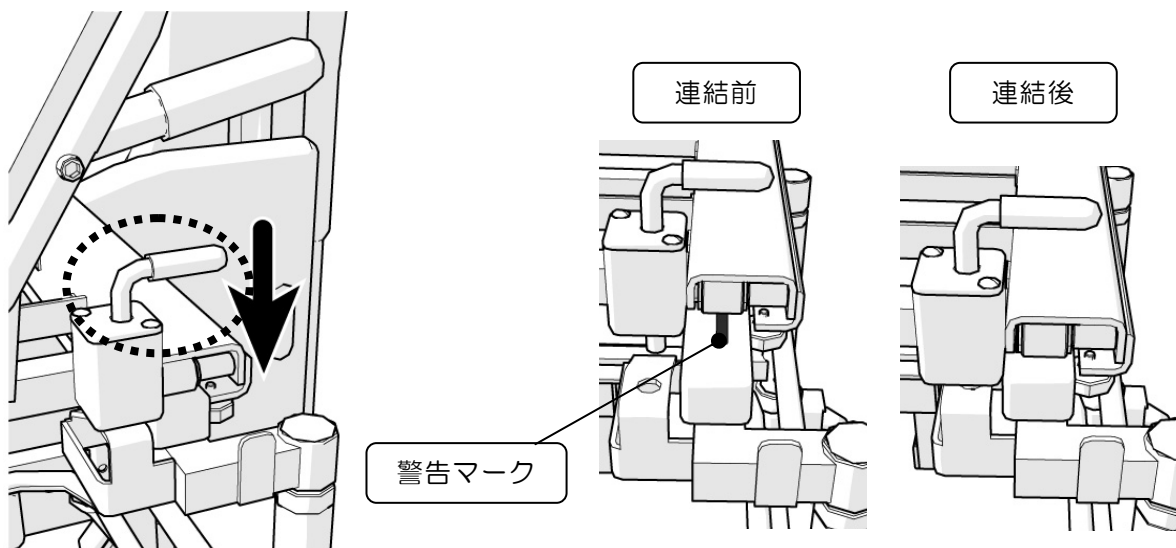
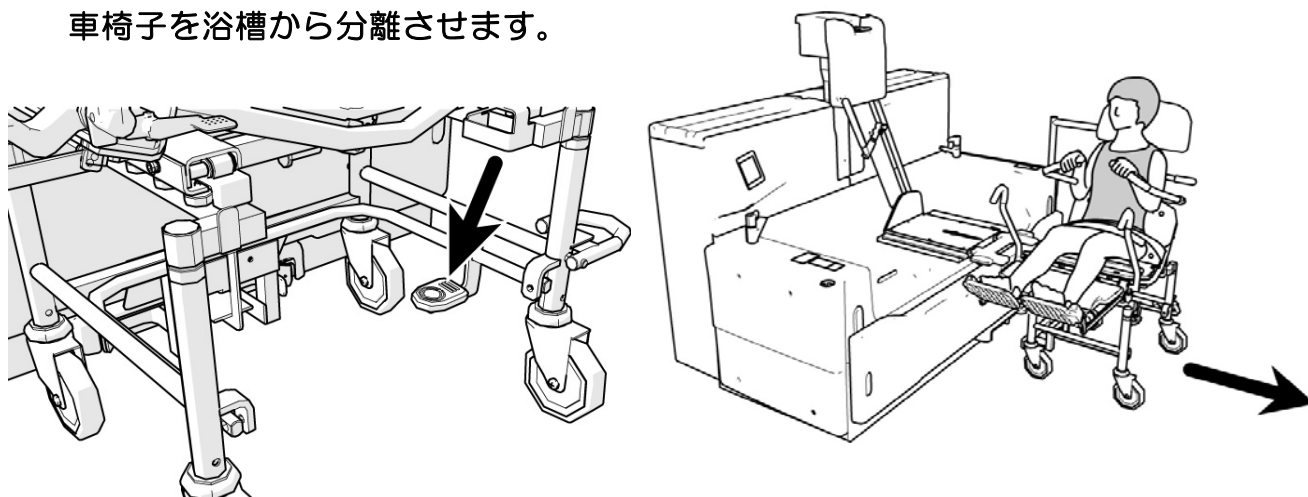
風呂から上がる

1. 排水スイッチを押します。　→基本 P.26

2. リフトを上限まで上げます。　→基本 P.30

3. 排水されて湯量が減り、扉のシールが自動的に解除されたことを確認します。
→基本 P.26

4. 扉を開けます。　→基本 P.26

5. スライドレバーを引き上げ、
車椅子上部を手前に引きます。

6. 車椅子上部と車椅子下部が連結されます。

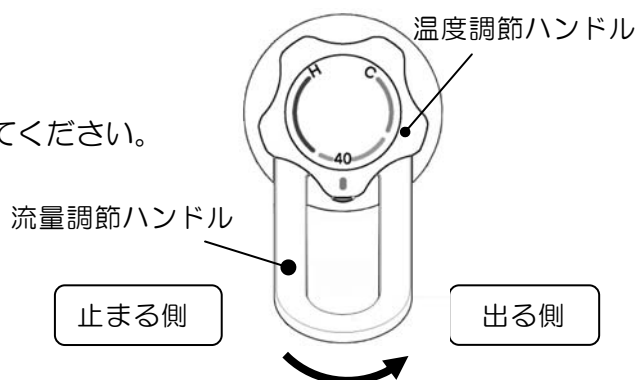
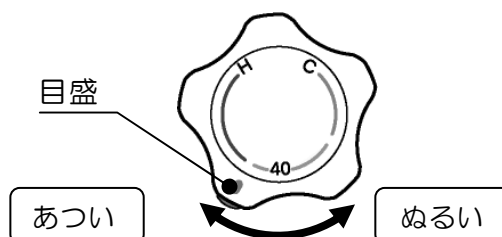
スライドレバーが下がり、警告マークが隠れていることを確認してください。

7. キャスターストッパーを解除し、連結解除ペダルを踏み込み、車椅子を浴槽から分離させます。

⚠注意　車椅子移動前に車椅子上部と下部がしっかり連結されていることを確認する

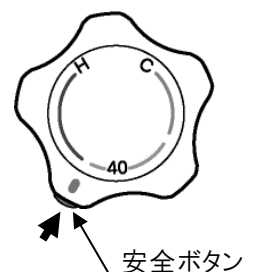
スライドレバーが上がった状態や、警告マークが目視できる状態で車椅子を浴槽に連結すると、車椅子上部と下部が急に分離して入浴者にショックを与える恐れがあります。

操作方法

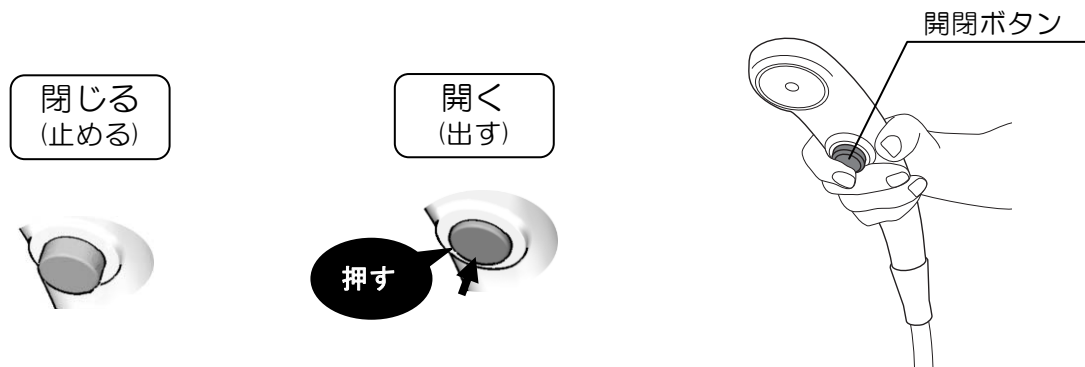
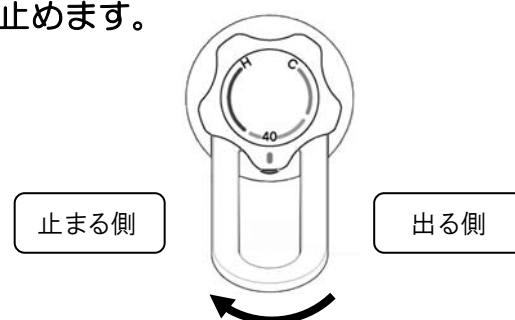
シャワーの使い方（オプション）

1. 流量調節ハンドルで、流量を調節します。
シャワーヘッドから湯が出始めるので、注意してください。

⚠ 注意　流量調節ハンドルはゆっくり回す

2. 温度調節ハンドルで、湯温を調節します。
温度調節ハンドルをHの方に回すと湯温が上がり、
目盛「40」の付近まで調節できます。
温度調節ハンドルをCの方に回すと湯温が下がり
ます。

 警告
- **シャワーを入浴者にかける前や使用中にも手で湯温を確認する**
- **シャワーをかけたままにして入浴者から離れない**

3. 高温の湯（約 45℃～）を出すには、安全ボタンを押しながら、
温度調節ハンドルで湯温を調節します。
温度調節ハンドルは誤って高温の湯を出さないように、
安全ボタンが付いています。
やけどを防止するため、通常はハンドルの停止位置より
温度の低い範囲でご使用ください。

⚠ 警告　高温のお湯を使用した後は、温度調節ハンドルを適温に戻す

操作方法／シャワーの使い方

4. 一時的にシャワーを止めたい場合は、開閉ボタンを押します。

5. 流量調節ハンドルを止まる側に回し、シャワーを止めます。

⚠ **注意　シャワーの使用後は、シャワーの開閉ボタンを「開く」の状態にしたまま流量調節ハンドルでシャワーを止める**

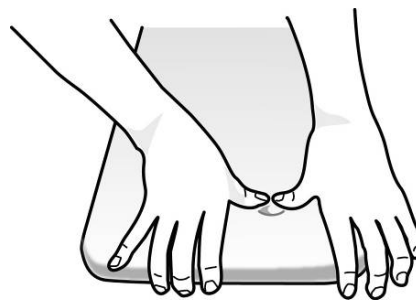
日常のお手入れ

座面用マットの着脱

外す

マットの裏のピンの両側を両手で持つようにして、
マット止めの穴から１つずつゆっくり外します。

着ける

マットを座面の各部に合わせ、マット止めの穴とピンが
合っていることを確認してから、マットの表面からピンを
押して、穴にしっかり差し込みます。

清掃

１日の入浴作業終了後は、下記の方法で清掃を行ってください。

部品名	清掃方法
浴槽内	① リフトを上限に戻して、おまかせ終了（P.19）を選択して、浴槽の電源を落としてください。浴槽内とタンク内の残水を自動排水します。 ② 付属の『浴槽クリーナーA』とスポンジ等の柔らかいもの使用して洗浄し、よく水で洗い流してください。 ※ホースやシャワー等で洗浄するのは、浴槽内側だけにしてください。 ※浴室床面を洗う際には水がはねかからないように注意してください。 ※本製品は、FRP 製のため、たわし等で擦ると傷がつきます。 ※『浴槽クリーナーA』は、最寄りの営業所にご用命ください。
操作パネル	布で軽く拭く程度にしてください。
ステンレス部 （ガイド等）	ステンレス部は水滴をそのままにしておくと水垢が残り汚くなります。 乾いた布で水滴を拭いてください。
マット	座面よりマットを取り外し、浴室用の洗剤で洗い、 水でよくすすいで、陰干ししてください。 ⚠ **注意**　**・マットは、必ず日陰干しにて乾燥する** **・マットは、高温による変形に注意する**

日常のお手入れ

薬液殺菌について

本浴槽とリフト、及び車椅子上部、または座面を殺菌する場合は、下記の手順で行ってください。

●濃度約 1ppm の薬液を浴槽に満たして、浴槽内と車椅子上部、または座面を殺菌します。
●毎日の入浴作業終了後に行うことをお奨めします。

作業手順	備考
①座面または車椅子上部をセットし、リフトを下限まで下げる。	あらかじめ湯はり（基本Ｐ.22）をして、浴槽半分とタンクを満水にしておきます。
②浴槽内へお湯（水）を追加する。	差し湯も利用して、水位が満水近くまで湯（水）を入れてください。
③**6%の次亜塩素酸ナトリウム**を適量（下記を参照）浴槽へ投入する。 座面の場合　：10ml（湯量 455ℓ） 車椅子上部の場合：　9ml（湯量 420ℓ）	適正水位の湯量に対して､約 1ppm の濃度になります。－当社推奨値－ **機体に原液が直接かからないように注意してください。**
④水をよく攪拌する。	
⑤３分程度放置する。	
⑥リフトを上げる。	
⑦排水する。	全て排水スイッチを押してください。
⑧浴槽と座面または車椅子上部をシャワーで水洗いする。	薬液をよく洗い落とします。
⑨乾拭きする。	
⑩室内を換気する。	

薬液の原液には、次亜塩素酸ナトリウム６％溶液を使用してください。
他の薬液を使用する、あるいは他の溶液と混ぜて使用しないでください。
（P.33 の推奨品についてもご覧ください）

⚠ **危険　次亜塩素酸ナトリウムは酸性の製品の近くに置かない、一緒に用いない**
人体に有害な塩素ガス等の発生の恐れがあります。

⚠ **注意　次亜塩素酸ナトリウムの原液を昇降シートやカバー類に直接かけない**
変色、破損の原因になる恐れがあります。

このようなときは

まずは次の内容を確認いただき、なお異常があるときは最寄りの営業所にご連絡ください。

操作関係

このようなときは： 操作パネルが表示されない

ここを確認してください：

●電源は入っていますか？
→ブレーカーを ON にしてください。

参照ページ：基本 P.17

●パネルのランプが赤になっていませんか？
→操作パネル画面に触れてください。

給湯関係

このようなときは： 湯はり開始、タンク給湯開始をタッチしても、タンクに給湯できない

ここを確認してください：

●タンク満水まで給湯されていませんか？
→タンクの水位が上限を切ると自動的に給湯を開始・再開します。

参照ページ：基本 P.39

●操作パネルに入浴中画面（基本 P.38）が表示されていませんか？
→入浴中はタンクへ給湯できません。シール解除後、自動的に給湯を開始・再開します。

●給湯水配管の元バルブが閉じていませんか？
→給湯水配管の元バルブを開けてください。

●差し湯を行なっていませんか？
→カランのバルブを閉じ、差し湯を止めてください。

このようなときは： タンク給湯中、給湯が断続的に中断にする

または、「タンク給湯湯温異常」が表示され、給湯が停止する

ここを確認してください：

●温度管理システムの安全装置が働いています
→お湯が 48℃以上、または 35℃以下になり、給湯が自動停止した可能性があります。暫くすると、手動で給湯を再開してください。

頻繁に表示される場合は、タンク機能画面（基本 P.39）にて設定温度を変更するか、最寄りの営業所にご連絡ください。

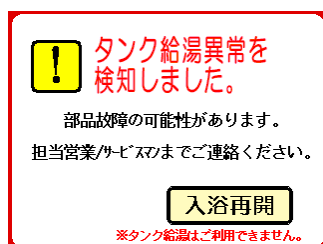
参照ページ：基本 P.24

このようなときは： タンク給湯が停止しない

ここを確認してください：

●タンク給湯開閉弁またはタンク満水検知センサのトラブルの可能性があります
→給湯水配管の元バルブを閉めた後、最寄りの営業所にご連絡ください。

このようなときは

このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
給湯関係		
操作パネルに「タンク給湯異常を検知しました」と表示され、給湯が停止した	**● タンク給湯開閉弁またはタンク満水検知センサのトラブルの可能性があります** →給湯水配管の元バルブを閉めた後、最寄りの営業所にご連絡ください。 →入浴再開をタッチすると、入浴作業を継続できますが、タンク給湯は使用できません。差し湯（P.44）などでお湯を浴槽へ直接給湯してください。	
給湯水量、または温度が安定しない もくしは、設定温度に達するまでの時間が長い（1分以上）	**● 他の設備で大量に湯を使用していませんか？** →使用する時間をずらす等、使用時間を調整してください。 →給湯機の能力アップをご検討ください。	
	● ミキシングの調整不良の可能性があります →設定温度を1℃ずらして設定してください。 →電源を切って、再起動してください。 →頻発する場合は最寄りの営業所にご連絡ください。	
操作パネルに「給湯温度を調整できません。」と表示される	**●給湯水圧の圧力比が1分間以上、適正範囲外になっていませんか？** →圧力比が一時的な変動の場合、適正範囲内に戻ると、表示が消えます。表示が続く場合、または頻繁に表示される場合は、最寄りの営業所にご連絡ください。	
	●設備側のお湯・水が、本製品へ正常に供給されていますか？ →ボイラーの電源や設定温度、元バルブが開いているか確認してください。表示が続く場合、または頻繁に表示される場合は、最寄りの営業所にご連絡ください。	

このようなときは

このようなときは	ここを確認してください	参照ページ

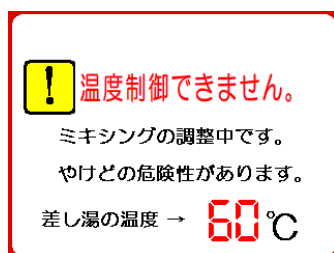
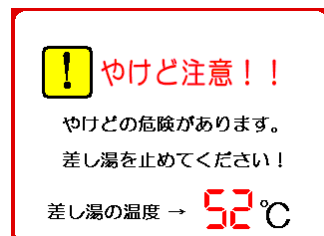
差し湯関係

操作パネルに「温度制御できません。」と表示される

温度制御できません。

ミキシングの調整中です。

やけどの危険性があります。

差し湯の温度 → 60℃

●ミキシングの自動調整中です

→電源を入れた直後は、自動で給湯温度の調整を行っています。
その間、
非常に高温のお湯がカランから給湯される可能性がありますので、ただちにカランでの給湯を止めてください。

ミキシングの調整が終わると、
表示も消えます。

操作パネルに「やけど注意！！」と表示される

やけど注意！！

やけどの危険があります。

差し湯を止めてください！

差し湯の温度 →

52℃

●48℃以上のお湯がカランから出ています

→差し湯（カラン）での給湯中は、高温のお湯が出ていても自動停止しません。
本警告が表示中は入浴者から目を離さず、給湯中のお湯が身体に直接かからないよう注意をしてください。

このようなときは	ここを確認してください	参照ページ

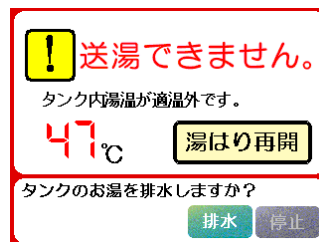
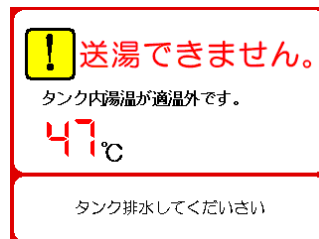
たし湯関係

浴槽へお湯が送られない

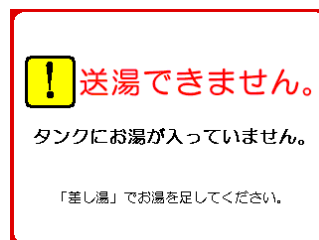
または、たし湯を押しても
お湯が送られてこない

●**タンク内湯温は適温外（35℃以下、46℃以上）ではないですか？**

→温度管理システムが作動しています。
タンク排水するか、給湯温度を変更して
タンク内湯温が適温（36℃～45℃）になる
ように調整ください。

→湯はり準備中の場合
湯はり再開で復帰します。必要に応じて
タンク排水をして湯温を調整してくださ
い。

→たし湯の場合
タンク機能画面（基本 P.39）にて給湯温度
変更やタンク排水して、湯温を調整して
ください。

●**タンクが空になっている可能性があります**

→タンク機能画面でタンクへ追加給湯する
か、差し湯にて直接浴槽へお湯を給湯して
ください。

送湯できません。
タンクにお湯が入っていません。
「差し湯」でお湯を足してください。

基本
P.39
P.42

このようなときは

	このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
たし湯関係	浴槽へお湯が送られない または、たし湯を押しても お湯が送られてこない	**●浴槽の排水栓が開いていませんか？** →排水ランプが点灯しているか確認し、全て排水、または半分残すスイッチのいずれかを押して、排水栓を閉じてください。 送湯できません。 浴槽の排水栓が開いています。 排水栓を閉じてください。 排水栓は「全排水」、「半排水」いずれかのスイッチを1秒以上を押すと、閉めることができます。	基本 P.27
		●扉シールが開いていませんか？ →シール中の場合は、シールが完了し、入浴画面に切り替わってから、再度操作してください。 扉が既に閉まっていて、シールがされていないときは、もう一度扉を上下させて、シールをしてください。 送湯できません。 扉のシールが完了していません。 扉を閉めてください。	基本 P.27
	操作パネルに 「送湯ポンプ保護が働きました」 と表示された 送湯ポンプ保護が働きました。 部品故障の可能性があります。 担当営業/ｻｰﾋﾞｽﾏﾝまでご連絡ください。 入浴再開	**●浴槽の下半分には、お湯が貯まっていますか？** →お湯が貯まっている場合 故障ではありませんが、頻発する場合は最寄りの営業所までご相談ください。 入浴再開をタッチして入浴を続けてください。 →お湯が貯まっていない、または少ない場合 ポンプの故障の恐れがあります。 入浴再開をタッチして入浴を続けることは可能ですが、タンク給湯は使用しないでください。 最寄りの営業所にご連絡ください。	

このようなときは

このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
車椅子が連結されない	●**車椅子を連結部に最後まで押し付けましたか？** →車椅子を最後まで連結部に押し付けてください。	P.11
	●**車椅子と浴槽の位置は合っていますか？** →浴槽縁の連結用の目印と、車椅子の黒い部材が合うように車椅子を移動し、連結させてください。	P.11
車椅子上部がスライドしない	●**リフトは上限ですか？向きは合っていますか？** →リフトの上限ランプは点灯しているか、レール台が浴槽の右側にあることを確認してください。またロックがしっかり掛かっているか確認してください。 ！脱落 危険！！ 車椅子を浴槽側に送り出さないでください。 リフトを上限にセットしてください。 リフトを右側にセットしてください。	
	●**浴槽と正しく連結されていますか？** →中間レールが倒れているか、連結ロックが確実に固定されているかを確認してください。	

車椅子のセッティング関係

このようなときは

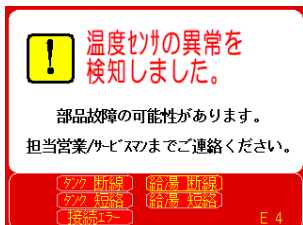
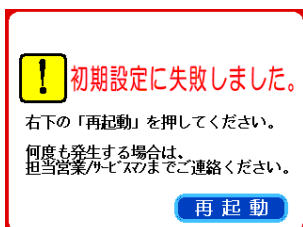
リフト関係

このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
スイッチを押しても リフトが動かない リフトを操作できません。 リフトが固定されていません。 「カチッ」と音がするまで リフトを左右に振ってください。	● **リフトが左右どちらかに固定されていますか？**（安全装置が作動している） →リフトを左右どちらかに振って、 ロックしてください。	基本 P.37
下降スイッチを押しても リフトが下降しない この操作はできません。 扉を閉めた後、 リフトを下降させてください。	●**扉が開いていませんか？** （安全装置が作動している） →扉を閉めるか、リフト下降ロックを解除して ください。	基本 P.28 P.29
上限ランプが点滅している	●**リフトが上限位置ではない状態で 車椅子が連結されていませんか？** （安全装置が作動している） →リフトを上限まで上昇させてください。	P.10
下限ランプが点滅している	● **「挟み込み注意」が表示されていませんか？** （安全装置が作動している） →異常ではありません。入浴者の手や足に 注意してリフトを下降させてください。	
上限ランプ/下限ランプが 両方点滅している	● **リフト下降ロックが解除されています** →異常ではありません。移乗する場合は、 点滅が消えてから行ってください。	基本 P.29

このようなときは

	このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
扉関係	扉シールができない ロックができない	●**扉を両手で、扉の凹み部分を持って、持ち上げていますか？** →左手で扉の左端の凹んでいる部分を持ち、両手で上まで引き上げてください。 頻発する場合は最寄りの営業所にご連絡ください。	基本 P.26
	扉シールが解除されない	●**「車椅子を連結してください」と表示されていませんか？**（安全装置が作動している） →車椅子入浴モードになっています。 車椅子を連結してください。	
		 ●**リフトが上限にいますか？** →リフトを上限にしてください。	
	開閉時に異音がする	●**グリスが切れている可能性があります** →最寄りの営業所にご連絡ください。	
排水栓関係	排水できない 操作パネルに「この操作はできません」と表示される この操作はできません。 排水したい場合は 「全排水」を押してください。	●**お湯（水面の高さ）は扉開放部より下ではありませんか？** →水位が扉開放部以下では「半分残す」排水は使用できません。 「全て排水」を選択してください。	基本 P.27
	排水できない 操作パネルに「排水栓の異常を検知しました」と表示される 排水栓の異常を検知しました。 もう一度、「排水」を 押してください。 扉シール　強制排水	●**排水口に障害物はありませんか？** →障害物を取り除いてください。 頻発する場合は最寄りの営業所にご連絡ください。 扉シール　強制排水をタッチすると、強制的に扉シールを開放することができます。	

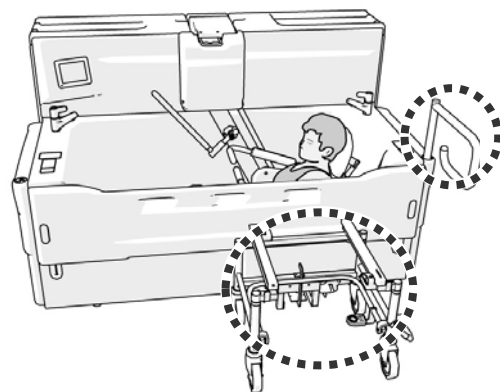
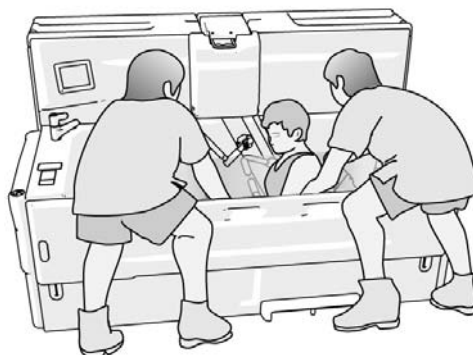
このようなときは

	このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
その他	シャワーヘッドから水が漏れる（オプション搭載時）	**●開閉ボタンの操作のみでシャワーを止めていませんか？** →開閉ボタンを「開く」状態にして、流量調節ハンドルでシャワーを止めてください。（開閉ボタンの操作のみで長時間止水させると、水漏れの原因となります。）	P.16
	清掃用の浴槽クリーナーA を使い切った	→当社推奨品のご購入をお薦めします。	P.31
	お湯がぬるい	**● 普段より 1℃～2℃高めの設定温度で湯はり（給湯）してください** →湯を張った状態が続くと、季節によっては湯が早く冷めてしまう場合もあります。	基本 P.22
	温度センサの異常を検知しましたと表示される 温度ｾﾝｻの異常を検知しました。 部品故障の可能性があります。 担当営業/ｻｰﾋﾞｽﾏﾝまでご連絡ください。 ﾀﾝｸ 断線 給湯 断線 ﾀﾝｸ 短絡 給湯 短絡 接続ｴﾗｰ E 4	**●温度センサが故障した可能性があります** →ただちに浴槽の使用を停止して、最寄りの営業所にご連絡ください。	
	初期設定の失敗が頻発する 初期設定に失敗しました。 右下の「再起動」を押してください。 何度も発生する場合は、担当営業/ｻｰﾋﾞｽﾏﾝまでご連絡ください。 再 起 動	**●機器の起動が所定の時間内に完了しなかった（約 50 秒以内）** →再起動をタッチして再起動してください。再度表示される場合は、電源を切り、電源を入れなおしてください。 頻発する場合は、最寄りの営業所にご連絡ください。	
	操作パネルに「EA」が表示される	**●排水・リフト・たし湯スイッチの故障** →最寄りの営業所にご連絡ください。	

- まずは操作パネルの指示に従って対処してください。
- その他、ご不明な点につきましては最寄りの営業所にご相談ください。
- ご使用中、万一故障が発生した場合、ただちに入浴者を安全な場所に退避させた後、本製品の使用を中止して最寄りの営業所にご連絡ください。

このようなときは

緊急時の脱出方法

入浴中の停電や故障時には、扉が開かない、排水が出来ない可能性があります。
その場合、下記の手順で入浴者を脱出させてください。また入浴者を脱出させるときは、
必ず介助者２人で行ってください。

1. 安全ベルト、縁手すり、車椅子下部を外します。
（車椅子入浴の場合）

2. 入浴者に前傾になってもらい、１人は背中から下図のように抱えます。
もう１人は足を抱えます。

3. ２人で抱えて持ち上げ、槽外へ脱出させます。

参考

復帰時は各「風呂から上がる」の項を参照して操作を行い、扉の開閉、リフトの昇降、車椅子の連結解除を行ってください。

機器について

保守・点検について

・本製品を使用する際は､機器の管理者の方が下記の点検項目に基づき、必ず基本 P.14 の始業点検（日常点検）及び定期点検（月 1 回程度）を実施してください。
・長期間使用しなかった製品を使用再開する場合は、機器が正常に動作するか十分な点検を行ってください。
・**点検時に異常が発見された場合は、製品の使用を中止して最寄りの弊社営業所にご連絡ください。**
・清掃等の簡単な保守は機器の管理者等によって実施するようお願いいたします。

● **定期点検項目**　（月に 1 回程度、以下の定期点検を行ってください。）

区分	点検内容	点検方法
設備	･排水溝内のごみの有無と排水の流れの状態	･目視(ごみがあれば除去し清掃する)
外観	･湯及び水配管からの漏れ	･浴槽下を覗いて、床に漏れた跡がないことを確認
	･シャワーホースとシャワーヘッドの破損(オプション)	･目視
	･給湯温度の表示	･市販の棒状温度計でカランの吐出湯温を測定し、設定表示と比較する（表示差±1℃以内が正常）
	･タンク内温度の表示	･湯はり直後、棒状温度計で浴槽内の湯温(水深 25 ㎝程度の位置)を測定し、表示と比較する（表示差±1℃以内が正常）

● **定期保守点検契約のお勧め**

製品を長期間正常な状態で安全に使用できるように保証期間後の「保守点検契約」の締結をお勧めします。詳しくは別添の「保守点検契約のお勧め」をご覧になるか、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

機器について

保証とアフターサービス

保証書と保証期間

・保証書（別添）は再発行致しませんので紛失されないよう大切に保管してください。
　保証書がないと保証期間中でも有償修理とさせていただく場合があります。
・保証期間は 1 年です。但し本体フレームおよび FRP 部品は 5 年間です。保証の規定に
　つきましては保証書をご覧ください。

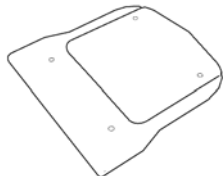
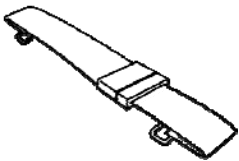
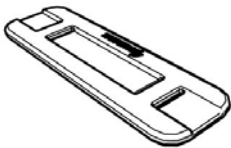
修理をご依頼いただく場合

・修理をご依頼いただく場合は、下記のことをお知らせください。
　　機種名　　：　*UCB-100*
　　お買い上げ：　　年　月　日
　　故障状況(できるだけ詳細に)
　　住所，氏名，電話番号
・メーカーより指示のあるとき以外は、決してカバーを開けたり、機器を分解したりしないで
　ください。

耐用期間

10 年：保守点検などの当社推奨環境で使用された場合。

消耗品（使用により、量などが減少していくもの）

浴槽クリーナーA

補充は、お客様により実施願います。

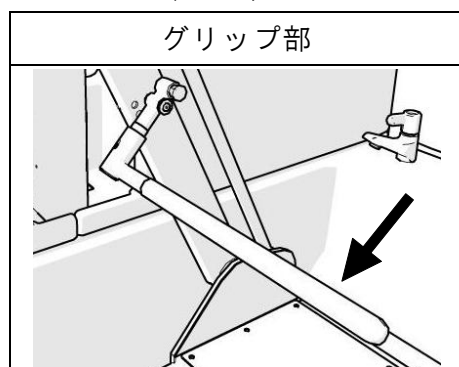
損耗品（使用により、磨耗･劣化･変質等が生じ、本来の機能が発揮できなくなるもの）

・正常な使用において、
交換の目安が約 2 年のもの。

マット	安全ベルト	パッド	シャワーヘッド※

コンストン（扉昇降補助部材）
タンク給湯防虫網
扉シール

交換の目安が約 3 年のもの。

グリップ部

給湯給水ホース
排水ホース
シャワーホース※

※　ハンドシャワーオプション UCB-10 付の場合

損耗品の交換時期が来ましたら弊社営業所にご用命ください。
点検して必要により有償交換いたします。

機器について／保証とアフターサービス

推奨品（P.18 の薬液殺菌について推奨する製品）

ピューラックス　濃度 6%

（次亜塩素酸ナトリウム 6%溶液）

保守用性能部品の保有期間

保守用性能部品の保有期間は、販売中止後 10 年です。ただし、性能部品が製造中止などにより入手不可能になった場合は、保有期間が短くなる場合もあります。

機器について

仕様

型　　式		UCB-100
外形寸法		1806(L)×1073(W)×1106～1458(H)mm
浴槽内寸法		1219(L)×574(W)×617(D)mm
湯　　量		約 460 リットル
実使用湯量	車椅子入浴時	約 350 リットル（入浴者：165cm、65 kg）
	座面入浴時	約 380 リットル（入浴者：165cm、65 kg）
貯湯タンク容量		約 198 リットル
質　　量（浴槽＋座面）		約 305 kg
最大使用者体重		100 kg
電　　源		単相 100Ｖ　50Hz/60Hz　15Ａ
電　　力		560W(50Hz)/750W(60Hz) （電源入力：710VA(50Hz)/870VA(60Hz)）
材質	フレーム・タンク	ステンレス
	浴槽	FRP
	扉・座面	プラスチック（PP）
	カバー	プラスチック（ABS）
	昇降リフト	ステンレス＋プラスチック（POM）
扉	開閉方式	手動
	シール方式	電動モータ＋ダイヤフラムによるエア式
座面シートスライド量		187 mm
リフト	座面高さ	FL より 486 mm
	リフト振り角度	中心より 27°
	昇降ストローク	352 mm
	昇降方式	電動アクチュエーター式
ハンドシャワー（オプション） UCB-10R/L		シャワー水栓 クリックシャワーヘッド１基
付属品		浴槽クリーナーA、アワスプレー
その他		電動ミキシング、カラン 液晶タッチパネル（温度計・入浴時間計） 昇降手すり、縁手すり

注．都合により予告なく仕様の変更を行う場合があります。